

令和元年度(第4回)認定 とよた世間遺産 一覧

通番	種別	名称	所在地	推薦理由・物語	認定可否	評価理由
1	コト	街道を往来する幻の親王・尹良親王伝説	足助町、黒田町、	尹良親王(1364-1424)は、後醍醐天皇の皇子・宗良親王の子(後醍醐天皇の孫)で、南北朝時代に南朝方の皇族と伝わる。東国各地を転戦し、長野県の浪合で亡くなったとされ、旧伊奈街道(中馬街道)沿いには、親王の伝説が伝わっている。足助町の今朝平、中之御所は親王にちなんだ地名であり、親王の袈裟掛け石がある。黒田町の正寿寺には、親王の遺品と伝えられているものが残されている。御所貝津町には親王の腰掛石と伝わる岩もある。歴史学的には実在を疑われる尹良親王だが、伝説が残されている旧伊奈街道の範囲は、伝説を共有する一つの文化圏と認識できる。実際が不明な伝説が、実際に地名や品物となって形になるところが面白く、地域のつながりを考えるうえでも興味深い。伝説に関係する品や場所を一括で認定することにより、尹良親王を軸として地域の物語をつなぐことができる可能性がある。	認定	地域性○、 物語性○、 オモシロ度○、 遺産性○
2	コト	「手軽に見える絶景」Mt. 押山	押山町	押山は標高783mの山で、愛知130山の一つに数えられています。町名と区別するためにMt. 押山と表記されます。近くまで車で行くことができ、10分ほどで登頂できますでしょうか。。秋から初冬にかけて条件が整えば、壮大な雲海の景色を見ることができます。地元の押山歴史探検隊が整備しています。	認定	地域性○、 物語性○、 オモシロ度○、 遺産性○
3	コト	家具と暮らし+カフェ「ヒトキ-人と木-」	稲武町	家具と暮らし+カフェ<ヒトキ-人と木->は、愛知県豊田市・稲武地区にある、家具工房『first-hand』が主宰するお店です。2010年にIターンで豊田市に移住した松島さん夫妻が、家具や暮らしの道具のショールーム、食の提案、自分たちの活動を一緒に楽しんでもらう場所として、2015年4月に<ヒトキ-人と木->をオープンさせました。家具工房『first-hand』の国産材や地域材にこだわった家具や暮らしの道具の制作、豊田市産木材を使用し、伐採から仕入れ、加工、生産、販売までを行うブランド「hitotoki」、食材等にもこだわったカフェの運営、文化の学び場としてのヒトキの教室の実施まで含めて、特徴的な活動の場・コトとして認定したい。	認定	地域性○、 物語性○、 オモシロ度○、 遺産性○
4	ヒト	木使いの人・山田政和さん	豊田市本徳町	豊田市産の木材で家具や遊具などを作り、市民に木材の新しい使い方を楽しく愉快地提案している。ラグビーワールドカップ2019の際には、巨大な木製ラグビーボールを製作したり、依頼されて木製の雲梯などを作ったりと、様々な「木使い」をしている。	認定	地域性○、 物語性○、 オモシロ度○、 遺産性○

5	コト	人生を耕す読み物「耕ライフ」	豊田市平戸橋町	「人生を耕すためのライフスタイルマガジン」耕ライフ。とよたを代表する地域密着情報誌です。発行部数15,000部。48P。その質感と内容は、豊田市への移住を呼び込むと言われるほど。日本タウン誌・フリーペーパー大賞などの受賞歴もあり。とよたの魅力発信をするとともに、魅力を作っている。	認定	地域性○、 物語性○、 オモシロ度○、 遺産性○
6	コト	三河の秀峰・猿投山	豊田市猿投町ほか	矢作川の河口からもその姿を見られる美しい姿の猿投山。山の高さは一番ではないが、他の山塊から独立して鎮座する姿は畏敬の念を喚起する。豊田市には地域の暮らしに密着した山々が数多くあるが、その中でも猿投神社や様々な歴史文化の舞台となっている、豊田市を代表する山・景観やそこにある物語など全体を含めたコトとして未来につなげたい。	認定	地域性○、 物語性○、 オモシロ度○、 遺産性○
7	コト	温故知新のエンターテイメント・古橋会の活動	豊田市稲武町ほか	一般財団法人古橋会が所管する古橋懐古館。その周辺では懐古館の所蔵資料を使った山里の歴史文化の発信や、養蚕から製糸、伊勢神宮への献糸まで伝統を繋ぐいなぶまゆっこ(まゆっこクラブ)の活動など、稲武の名家古橋家の歴史を繋ぎながら新たな地域の暮らしを探る活動を、温故知新のエンターテイメントとして世間に知っていただきたい。	認定	地域性○、 物語性○、 オモシロ度○、 遺産性○
8	コト	笑いの殿堂・笑劇派	豊田市平戸橋町	愛知県豊田市を拠点に全国各地の学校や自治体などで、生の舞台から記憶に残る笑いと感動をお届けし、社会的な話題で新喜劇を全国にお届けするお笑い劇団。年間約190公演をこなし、老若男女どなたでも楽しんでいただける新喜劇をはじめ、各種イベント司会や座長の講演会、テレビ・ラジオ出演をしている。1998年に創設。自主劇場を構える平戸橋地区を案内するツアーも催行するなど、地元愛にも熱い。	認定	地域性○、 物語性○、 オモシロ度○、 遺産性○
9	コト	暮らし方開拓 「INABU BASE PROJECT」		トヨタケ工業の横田社長は、平日週3日は事業所で働き、土日は自然豊かな稲武地区でマウンテンバイク等の山岳ガイド業をして、他平日に休むという新しい働き方を提案する「INABU BASE PROJECT」を立ち上げました。 豊田市稲武地区は山間部で少子高齢化が深刻であり、地元での新卒採用は難しい状況。このため、働きやすさや山間部の魅力をよりダイレクトに伝えることで、地区外から若い人材を呼び込む取り組みも行っています。 本プロジェクトでは平日週3回は事業所で働き、土日は同地区でトレッキング、マウンテンバイク等の山岳ツアーガイド業やマウンテンバイクの新たなコースを開拓しながら進む(ビルド&ライド)を地域の意見や地形を考慮しながら、進めており画期的なこの取り組みは、市内、県内を超え注目されている。	認定	地域性○、 物語性○、 オモシロ度○、 遺産性○